

米欧亜回覧

第 5 号
編集・発行会
米欧回覧の会
事務局

映像講演会、各地で続演・・・

★第二回例会開催さる

「米欧回覧の会」第二回の例会が、九月七日(土)午後一時十分から国際文化会館で約四十名が集まり行なわれた。会は浅沼晴男氏の司会で始まり、まず泉三郎氏の挨拶があり、本日の例会の趣旨ならびに進行について説明があった。続いて第一部の「映像の部：英仏編」ならびに、第二部「米欧回覧実記」の抜粋解説が泉氏によって行なわれた。その後コーヒープレークで小休止をとったあと、会場の設営を模様替えしてサロン形式とし、浅沼氏の司会で参会者からコメントや質問の発言があり、泉氏から応答もあって相互のコミュニケーションもはかられた。

新しい試みだったため、多少の問題点は残ったが、この方式は一つのパターンとして評価された様子である。なお、十七時過ぎ、田川幹事より、今後の予定などについて報告があり、十七時十五分散会した。

★英語版「映像の会」盛況!

東京有楽町の外国人記者クラブで、十月十七日(水)六時半から「KAISHA SOCIETY」(日本の会社に勤務する外国人が主体でつくりかたっている団体)の主催による「岩倉使節の映像の会」が開かれた。

出席者は百人をこえる盛況ぶり、英語版の映像「アメリカ編」を熱心に見入っていた。前後に泉三郎氏の英語による解説があり、そのあと浜地道雄氏の司会で参会者の何人かからコメントがあった。ドイツからたまたま来日中のボン大学のパンツァー教授は、岩倉使節の研究者でもあり、ドイツ語圏での使節の旅

を調べることにしている苦勞話を披露し、ロシア大使館の書記官は「アメリカだけでなくロシアもやってほしい」と注文をつけたりした。

なお、日本人出席者の中から、岩倉大使の子孫にあたる紙良輔氏から、帰国後岩倉家のアイスクリームにまつわるエピソードの紹介があったり、女子留學生の永井繁の孫にあたる瓜生氏からはわが国初の婦女子女同士のロマンスという興味ある話も披露された。

最後には、「是非、英国や欧州編もみたい」という希望が果たえられ、九時散会した。

★「飛鳥」クルーズや「寿学園」でも好評!

TMC(トップマネージメントクラブ)主催の「飛鳥」上海クルーズでは、「映像講演」が八回にわたって行なわれ、三百人近くの人が熱心に聴講した。また、府中市の教育委員会主催でおこなわれた寿学園では三百人をこえる受講者が非常に熱心に視聴して好評だった。

岩倉使節団のことは「知っているつもり」だったけど、こんなに凄く旅だとは「ちっとも知らなかった」という声があつても多く聞かれた。

このタイトルの本が十一月初旬に祥伝社から出版されることになりました。(四六版ハードカバー、二百七十ページ)

副題に「この国のかたちと針路を決めた男たち」とあり、岩倉使節団を紹介しながら、そこにかつて存在した「堂々たる日本人」の姿を浮かびあがらせようという企画です。

堂々たる日本人

知られざる岩倉使節団

泉 三 郎

「映像」という点にあるので、「映像」はあくまでもインテロダクションだと理解して欲しいのです。

ですから今回の本では、映像で伝えられなかった部分を中心にして、「使節は明治国家に何をもたらしたのか」、「留守政府はどうしていたのか」、

「外国人の目にはどう映ったのか」、「現代のわれわれにとつてこの使節はどんな意味があるのか」などの疑問になるべく答えようとしています。

私としてはこれまで「映像の会」をやってきたが大変気掛りなことが一つあります。それは映像だけをみて、「ふん、わかった。なんとなく大名旅行的ですね・・・」という感想であり、「それで、この旅は何か役にたったの?」という声なき声です。

これはそこまで言及できなかったシナリオにも問題があるのでしようが、「映像」での私の意図はまず最初に「旅を時系列で紹介す

ようか。もっともそれにしよては試論的なので「本論の序論」というべきかも知れません。いずれにしろどこまでその意図が達せられなかかわかりませんが、是非ご一覧願いたく、また友人知人の方々に推せんいたきたく存じます。

岩倉使節の見た英国とフランス

〔英 国〕

米欧回覧実記の抜粋を通じて（配布資料から）

(一) 英本土及付属ノ地——同じ島国から——

人口スベテ三千八百八十一万七千七百〇八人アリ、其形勢、位置、広狭、及ヒ人口ハ、殆ト我邦ト相比較ス、故ニ此国ノ人ハ、毎ニ日本ヲ東洋ノ英国ト謂フ、然トモ營業力ヲ以テ論スレハ、其懸殊モ亦甚シ、

此国附属ノ地ハ、五大洲中ニ普ク、（中略）

其人口ヲ総計スレハ、二億四千三百三十二万七千〇六十五人、唯支那ノ人口、是ニ過タルノミ、国人誇リテ英国ニ日没ヲミスト言フ、

(二) 富の源泉——農業国から——

英国ノ富ハ、元來礦利ニ基セリ、國中ニ鉄ト石炭ト産出高ノ莫大ナルコト、世界第一ナリ、国民此両利ニヨリ、瀛器、瀛船、鑛道ヲ發明シ、火熱ニヨリ蒸氣ヲ驅リ、以テ營業力ヲ倍蓰シ、紡織ト航海トノ利權ヲ專有シテ、世界ニ雄視横行スル國トハナリタリ、

(三) 貿易の利——居貿易の国から——

貿易ノ盛大ナルハ、世界ノ大市場ト称セラル、元來國ノ位置歐、米、弗ノ間ニテ、四浜海ナレハ、貿易ヲナスニ天然ノ障害ナク、要港良津甚タ多シ、貿易ノ昌ヘシ原由ハ、種種ノ來歴モ多ケレトモ、畢竟國土瘠瘠ニシテ、生活ニ艱ナレハ、外國貿易ヲ仰キテ、後ニ僅ニ足ルヘキヲ以テ、國民ノ心目早ク海商ニ注キ、加フルニ北狄ノ性タル、操舟ニ習フニヨリ、内地ノ牧利礦利ヲ興シ、之ヲ採テ、他國ノ必需物品ニ交換シタル積成ニテ、此ニ至レリト謂フヘシ、

(四) 勤勉——沃土の民から——

英ノ全国ハ、黄金花ヲ結ヒ、百貨林ヲナシテ、貴賤上下、悉ク皆昇平鼓舞セント、未タ然リ、豈夫然ランヤ、抑安楽ハ艱苦ノ結ヒシ果ニテ、富貴ハ勉強ノ開シ花ナリ、英國ノ富庶世界ニ冠タルハ、其人民ノ營業力他ニ超過セルニヨル、是ヲ以テ之ヲ謂ヘハ、英國ニ住スルモノ、頃刻モ懶惰スルヲ得ス、曾テ聞ク西班牙人ハ、終日睡ルヲ業トス、又曰ク英人ノ足跡ハ地ニ著止セスト、

(五) 三權政治——お上依存の国から——

英國ノ都鄙ヲ觀察スルニ、倫敦「ウェストミニストル」諸区ニ於テハ、國君ノ威權嚴ニシテ、立君ノ光ヲミル、倫敦「シチー」、及ヒ各都府ヲ過レハ、会社ノ自由盛シニテ、共和政治ノ態アリ、野村ヲ回レハ、貴族豪姓ノ權利大ニシテ、貴顕專治ノ態ヲミル、英人曾テ此三様ノ治ヲ併セテ、英國ノ政治ハ成レリト謂フヲ奇怪トセシニ、其地ヲスキ、其情ヲ觀察スレハ、真ニ一種ノ妙機ヲ此ニ存シタルヲ覺フ、

(六) 貧富——マイルドな社会から——

富ムモノハ日ニ富ミ、貧ナルモノハ終身屹屹トシテ、僅ニ自ラ食スルノミ、國中ノ民貧富ノ均シカラサル如此シ、

参加者の声

これは会場の雰囲気を知っていただくため、当日のコメントやアンケートから要約させていただきます。

- やはりオリジナル版の映像は見応えがあります。ダイジェスト版はあわてうわつつらをなでるようなところがありますから……
- 今回の例会の進行・構成は大変よかったです。今後の運営方法が見えてきたのではないのでしょうか。
- 「実記」は自分で黙読するのと朗読を聞くのでは随分違うことを発見しました。耳で聞きながら目で追うというのは大変理解に役立つと思います。
- 「実記」は素読だけでも理解できます。解説は聞き慣れない漢語の解釈でいどでよいのではないかと思います。
- 参加されている方々と交流の場があったほうがいいのでは、せっかくコーヒブレイクもあることだし……もう少し時間をとってティーパーティにするのも一案。
- スライドの長時間上映はちょっと眠たくなります。それに英仏

「フランス」



パリの凱門



パリの街並み、背景にエッフェル塔の塔尖がそびえ立つ。右側はルーヴル宮、左側には「鐘楼」の鐘楼がある。

- (一) 欧州ノ中枢——極東の島国から——
 フランスハ、歐羅巴洲ノ最モ開ケタル部分ニ於テ、中央ノ位置ヲシメ、百貨輻輳ノ都、文明煥發ノ極ナリ、三民ノ生業、普ク立チ、土地モ亦腴壤ニ属スレハ、人民ノ各地方ニ散処スルコト、大抵平等ニテ、其財産モ、亦之ニ準シ平等ナリ、
- (二) 商売上手
 欧米ノ工業ハ、一度仏都ニ輸入シテ、而後ニ備ヲ加ヘ、利潤ヲ増ス、故ニ各国有名ノ会社、一モ巴黎ニ出店セサルモノナシ、仏國人ハ、貿易交際ニ於テ、用意甚タ機発ニシテ、言語都雅、ヨク沽客ノ歡心ヲトリ、愛顧ノ心ヲ起サシム、而テ其貨物ノ華美ト、羅列ノ巧致ナル、人ノ嗜好ヲ引キ、鄙人ニタヒ仏國ノ肆ヲスキレハ、財布ノ底ヲ払フト謂フ諺アリ、
- (三) 人ヲシテ愉悅セシム
 巴黎ノ市中ハ、到處ニ酒店、割烹店、茶、咖啡店アリ、樹陰ニ榻ヲオキ、遊客案ヲ対シテ飲ム、盛夏ニ涼ヲ納レ、晴夕ニ月ヲミル、劇場、樂堂、処処ニアリ、所謂ル歌舞終日無ニ感容ノ氣象ヲ顯セリ、
 巴黎ノ市中、往ク所ミナ遊息ノ勝地アリ、街上ノ行人モ、亦其歩忙シカラス、空氣清朗ニシテ、烟煤少ク、薪ヲ以テ石炭ニ代フ、倫敦ニアレハ、人ヲシテ勉強セシム、巴黎ニアレハ、人ヲシテ愉悅セシム、
- (四) 天宮ノ如シ
 歐洲各國、及ヒ歐洲人種ノ住スル國國ハ、ミナ此都ヲ文明都雅ノ尖點トナシ、遠近ニ尊敬セラレ、英人ノ高慢ナルモ、婦人ノ風俗ハ、巴黎ノ新様ヲ模倣シ、露國ノ強大ナルモ、仏人ヲミレハ都人士トナシ、巴黎ノ麗都ハ、天宮、月樹ノ想ヒヲナス、
- (五) 博物館
 博物館ニ觀レハ、其國開化ノ順序、自ラ心目ニ感觸ヲ与フモノナリ、蓋シ國ノ興ルヤ、其理蘊ノ衷ヲ繙クコト、俄爾トシテ然ルモノニアラス、必ス順序アリ、先知ノモノノ後知ニ伝ヘ、先覺ノモノノ後覺ヲ覺シテ、漸ク以テ進ム、之ヲ名ツケテ進歩ト云フ、進歩トハ、旧ヲ舍テ、新キヲ図ルノ謂ニ非ルナリ、(中略) 古人云、百聞ハ一見ニ如カスト、寔ニ目視ノ感ハ、耳聽ノ感ヨリ、人ニ入ルコト緊切ナルモノナリ、
- (六) 理財巧者
 仏國ノ財政ト、貧民救助ノ法トハ、甚タ行届キタルモノニテ、畢竟此國ハ、商法ニ巧者ナルカ如ク、經濟學ニ富ミ、多士輩出スルニヨリ、其理財ノ巧ミナルコト、深遠奇警ナリ、
- (七) 文明ノ光——輕薄の国から——
 西洋ノ能ク日新シ、能ク進歩スル、其根元ハ愛古ノ情ニヨレリ、試ミニ見ヨ、凱酒門ノ壮大ハ、羅馬ノ古城門ニ脱化シ、「セイン」河橋ハ「タイハル」橋ニ脱化セリ、千百年ノ智識、之ヲ積メハ、文明ノ光ヲ生ス、之ヲ散スルトキハ、終古葛天氏ノ民ナリ、

をいっぺんに上映するのはもったいない気がします。

●使節団の失敗とか、当時の日本の国内事情との比較など同時に取り上げたら面白いのではないかと。

●日本人の偉大さをあらためて認識し、日本の現状を考え、その格差に心を痛めるものです。

●大変勉強になりました。今の世情を考えると、このような会は大変意義のあるものと思われまます。

●顕彰碑的なものだけでなく、そろそろ裏側からの批判的なものも聞きたいところです。

●「大金を使って旅してきて、結果としていったい何をえたのか」という疑問が残る・・・この問いに答える必要があるのではないかと。

●参加する人の想いがさまざまであることは、この種の会の宿命だと思います。歴史に関する関心は大きくわけて① 史実としてこれを検証し整理すること、② 歴史に学んで今後を考慮すること、の二つがあると思いますので、これらに分けて分科会的集まりをもち相互交流すること、もよいのではないのでしょうか。

●快い、知的でマイルドな刺激に満ちた会でした。清々しい気分が鳥居坂を歩きました。

<例会案内>

『米欧回覧の会』ご案内

趣旨 この会は「岩倉使節団」に興味を持ち、その記録である「米欧回覧実記」に関心を抱く人々の集まりです。

この大いなる旅と「実記」はまさに「温故知新」の宝庫と言えます。

この素材を媒体にして歴史をふりかえり現代の直面する諸問題についても自由に語りあおうという会です。

会費 上の趣旨に賛同する人なら誰でも入会できます。

例会 年に4回くらい会合をもつ予定です。

事業 次のような活動をする予定です。

映像サロン・講演会・旅行会
研究会・シンポジウムなど。
機関紙 年に4回程度機関紙を発行し、会員の意見発表、情報交換の媒体とします。

幹事 会員の中から、代表1名、幹事数名を選び、運営を担当します。

会費 年会費3,000円とし、主として通信費および機関紙代に充当します。例会・研究会・講演会などについては、その都度の会費とします。

事務局 当面は『ミササ・オフィス』に置きます。

〒192 八王子市元横山町1-14-16
ミササ・オフィス TEL 0426-46-1949
FAX 0426-45-8700

入会申込

氏名・連絡先（自宅或いは勤務先の住所 TEL・FAX）現職&キャリアを事務局までFAXまたは郵便でお送りください。なお、年会費は郵便払込が便利です。

00180-2-580729

米欧回覧の会

★ 第三回例会

日時：11月23日（土） 13:00~17:00

場所：国際文化会館（電話：03-3470-4611）

テーマ：「岩倉使節団のヨーロッパ〜どんな旅をし、何を見、考えたか」

スケジュール：13:00 開会

13:15 「スライド映像：欧州編オリジナル」の上映

14:45 「米欧回覧実記」の抜粋解説

15:30 コーヒー・ブレイク

15:45 コメント・サロン

17:00 閉会

会費：2,000円

★ 第四回例会

テーマ：「岩倉使節団のプラスとマイナスを総括する」

日時：1月29日（水） 18:00~21:00

場所：国際文化会館

*アンケート結果と今後の活動について

アンケートへの回答ありがとうございました。

結果を集計しましたので、そのあらましをご報告します。

回収数は62通ですが、解答は複数の重複になっています。

<例会のテーマとしての関心>

国 別	米 国	英 国	仏 国	ベルギー	オランダ	独 国	露 国
	26	16	12	5	7	15	6
国 別	デンマーク	スウェーデン	イタリア	オーストリア	スイス	アジア	
	5	6	5	4	8	15	
テーマ別	科学技術	政治法律	産業貿易経済	教育	マスメディア	育	
	10	14	19	9			
	宗教思想	事 外 交	都市生活	風俗習慣			
	17	8	18	19			
ジャンル別	歴 史		比較文明論		旅		
	21		32		14		

<分科会の希望>

研究会	実記を読む会	国 別	テ ー マ 別	ジャンル別	
	19	10	11	8	
旅行会	国内旅行		海外旅行		
	4		6		
映像の会	地域別	テーマ別	映画化	ビデオ化	CD-ROM化
	4	4	3	9	4

これらの数字を参考にしながら有志懇談会を開き、来年度の活動計画を検討中です。第三回の例会までには具体案が固まる予定であり、次号のニュースでご案内するつもりです。

*編集後記

最近日本人が自分のことを知らず、かえって外国人に日本のことを教えてもらったりすることが多くなりましたが、「新潮45」で連載しているドナルド・キーンさんの「明治天皇」もその一つです。十一月号の「藩ヲ廢シテ県ト為ス」では、岩倉使節のことが次のように書かれています。「日本は、何故か使節が条約改正を達成できなかったとして、これを惨憺たる失敗と呼ぶ。この意見は、当時の外国人たちの与するものではなかった。彼等は使節の果たした役割を、日本の歴史の輝かしい一ページとして絶賛したのであった」と。といっても実際はどうだったのか、「顕彰ばかりでなくきちっと批判もしなくてはいけない」という声もあり、第四回の例会は「岩倉使節団のプラスとマイナス」を本音で議論してみようという訳です。泉三郎氏の新著を叩き台？にして、それぞれのご意見をご準備下さい。

(幹事)